

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-341561

(43) 公開日 平成11年(1999)12月10日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 4 Q 7/38

識別記号

F I

H 0 4 B 7/26

1 0 9 H

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平10-149847

(22) 出願日 平成10年(1998) 5 月29日

(71) 出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72) 発明者 塚本 朗人

東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1 株

式会社東芝日野工場内

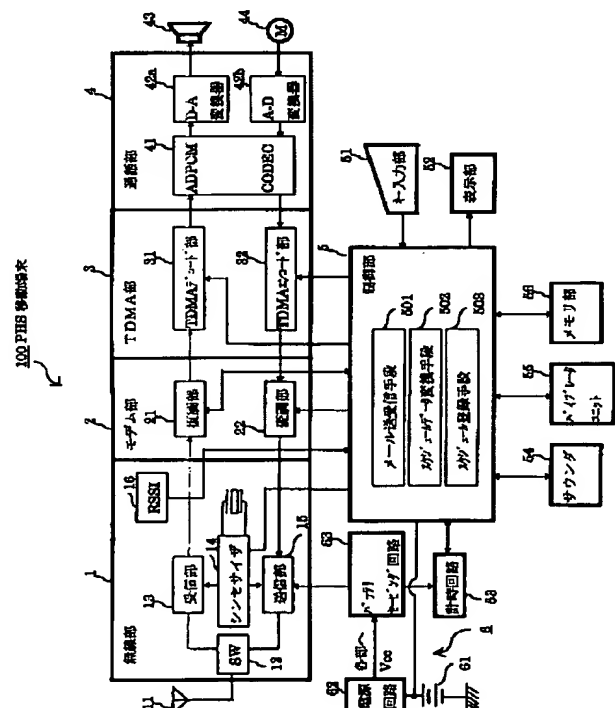
(74) 代理人 弁理士 木村 高久

(54) 【発明の名称】 通信端末

(57) 【要約】

【課題】 スケジュールデータをメールデータとして入力することなく相手端末に送信でき、また、受信したメールデータをスケジュールデータに変換して登録できるようにする。

【解決手段】 PHS 移動端末 100 において、メール送受信手段 501 は、スケジュールデータ転送発信操作に基づき、自己のスケジュールラから読み出したスケジュールデータをスケジュールデータ変換手段 502 によりメールデータに変換して相手先端末に送信する。また、メール送受信手段 501 は、相手端末からメールデータを受信すると、該受信データ中の所定識別コードを基にスケジュールデータであるか否かを識別し、スケジュールデータであれば、登録操作を待って、該受信データをスケジュールデータ変換手段 502 によりスケジュールデータに変換してスケジュールラに登録する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 メッセージデータを送信するメッセージ送信手段と、

スケジュールデータを登録可能なスケジューラ機能を有する通信端末に対して送信するスケジュールデータを前記メッセージデータに変換するデータ変換手段と、このデータ変換手段が変換したメッセージデータを前記送信手段が相手先への送信制御を行う制御手段とを有することを特徴とする通信端末。

【請求項 2】 メッセージ送信手段は、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を送信する通信手順を有し、前記メッセージデータに変換されたスケジュールデータを前記発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いて送信することができることを特徴とする請求項 1 記載の通信端末。

【請求項 3】 スケジュールデータを登録し、該登録データを表示確認できるスケジューラ機能を有する通信端末において、メッセージデータを受信するメッセージ受信手段と、このメッセージ受信手段が受信したメッセージデータをスケジュールデータに変換するデータ変換手段と、このデータ変換手段が変換したスケジュールデータの登録制御を行う制御手段とを有することを特徴とする通信端末。

【請求項 4】 メッセージ受信手段が受信したメッセージデータがスケジュールデータであるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段の判定結果に基づき、前記スケジュールデータを受信した旨を報知する報知手段とを具備し、前記制御手段は、前記報知手段による報知後、前記データ変換手段が変換したスケジュールデータの登録制御を行うことを特徴とする請求項 3 記載の通信端末。

【請求項 5】 メッセージ受信手段は、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を受信する通信手順を有し、前記メッセージデータに変換されたスケジュールデータを前記発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いて受信することができることを特徴とする請求項 3 記載の通信端末。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、スケジュールデータを登録し、該登録データを表示確認できるスケジューラ機能を有する通信端末装置に係わり、詳しくは、自端末に登録されているスケジュールデータを相手先端末に送信し登録可能にするためのスケジュールデータ伝送方法の改良に関する。

## 【0002】

【従来の技術】例えば、PHS (Personal Handyphone System) 移動端末等の移動無線端末においては、ユーザに係わる各種スケジュールを開催日時や開催場所等と関

連付けてスケジュールデータとして登録しておき、必要に応じて該スケジュールデータを読み出して表示部に表示して確認できる機能（以下、スケジューラという）を有したものがある。

【0003】ここで、上記スケジューラに登録されているスケジュールが例えば営業会議など、他の人にも関わるスケジュールである場合がある。

【0004】従来技術においては、所定データをメッセージ情報として送受信する機能はあるが、例えば、受信したメッセージ情報を自端末におけるスケジューラに登録することはできず、受信したメッセージ情報を表示部への表示等で確認した後、スケジュールデータとして自端末に登録し直さなければならなかった。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来システムでは、ある端末に登録されたスケジュールデータを相手先端末に送信して登録する場合、送信側では、相手先端末に伝えようとするスケジュールデータを一旦メールアドレスとして入力し、受信側では、受信したメールアドレスをスケジュールデータとして入力し直す必要があり、送信側及び受信側共に煩雑な入力操作を強いられるという問題点があった。

【0006】本発明は上記問題点を解消し、相手先端末からメールアドレスを受信した場合、該受信メールアドレスをスケジュールデータに変換して登録でき、受信メールアドレスをスケジュールデータとして入力し直す必要のない通信端末を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項 1 の発明は、メッセージデータを送信するメッセージ送信手段と、スケジュールデータを登録可能なスケジューラ機能を有する通信端末に対して送信するスケジュールデータを前記メッセージデータに変換するデータ変換手段と、このデータ変換手段が変換したメッセージデータを前記送信手段が相手先への送信制御を行う制御手段とを有することを特徴とする。

【0008】請求項 2 の発明は、請求項 1 の発明において、メッセージ送信手段は、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を送信する通信手順を有し、前記メッセージデータに変換されたスケジュールデータを前記発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いて送信することができることを特徴とする。

【0009】請求項 3 の発明は、スケジュールデータを登録し、該登録データを表示確認できるスケジューラ機能を有する通信端末において、メッセージデータを受信するメッセージ受信手段と、このメッセージ受信手段が受信したメッセージデータをスケジュールデータに変換するデータ変換手段と、このデータ変換手段が変換したスケジュールデータの登録制御を行う制御手段とを有することを特徴とする。

10

20

30

40

50

## 3

【0010】請求項4の発明は、請求項3の発明において、メッセージ受信手段が受信したメッセージデータがスケジュールデータであるか否かを判定する判定手段と、前記判定手段の判定結果に基づき、前記スケジュールデータを受信した旨を報知する報知手段とを具備し、前記制御手段は、前記報知手段による報知後、前記データ変換手段が変換したスケジュールデータの登録制御を行うことを特徴とする。

【0011】請求項5の発明は、請求項3の発明において、メッセージ受信手段は、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を受信する通信手順を有し、前記メッセージデータに変換されたスケジュールデータを前記発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いて受信することができることを特徴とする。

## 【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について添付図面を参照して詳細に説明する。図1は本発明に係わるPHS移動端末100の構成を示すブロック図である。このPHS移動端末100は、アンテナ11を備えた無線部1と、モデム部2と、TDMA (Time Division Multiple Access) 部3と、通話部4と、制御部5と電源部6とを備えて構成される。更に、制御部5に付属するものとして、キー入力部51、液晶表示部52、計時回路53、サウダ54、パイプレータユニット55、メモリ部56が設けられる。

【0013】このPHS移動端末100において、家庭用基地局BSHまたは公衆用基地局BSPから到来した無線周波信号は、アンテナ11で受信された後、無線部1の高周波スイッチ(SW)12を介して受信部13に入力される。受信部13では、上記受信された無線周波信号が周波数シンセサイザ14から発生された受信局発振信号とミキシングされて受信中間周波信号に周波数変換される。なお、上記周波数シンセサイザ14から発生される局発振周波数は無線チャネル周波数に応じて制御部5より指示される。また、無線部1には、受信電界強度検出部(RSSI)16が設けられている。この受信電界強度検出部16では、家庭用基地局BSHまたは公衆用基地局BSPから到来した無線周波信号の受信電界強度が検出され、その検出値は制御部5に通知される。

【0014】受信部13から出力された受信中間周波信号は、モデム部2の復調部21に入力される。復調部21では、上記中間周波信号のデジタル復調が行われ、これによりデジタル通話信号が再生される。

【0015】TDMA部3のTDMAデコード部31は、制御部5の指示に従って、自装置に割り当てられたタイムスロットからデジタル通話信号を抽出し、この抽出したデジタル通話信号を通話部4に入力する。通話部4は、適応差分PCMコーデック(ADPCM-CODEC)41〔PCMコーデック(PCM-CODE

## 4

C)を含む〕とD/A変換器42a及びA/D変換器42bとから成り、上記デジタル通話信号はこの適応差分PCMコーデック41で復号化され、D/A変換器42aを介してアナログ通話信号として再生される。そして、このアナログ通話信号は図示しない受話増幅器で増幅された後、スピーカ43から拡声出力される。

【0016】一方、マイクロホン44から入力された送話音声は、A/D変換器42bを介してデジタル信号化され、通話部4のPCMコーデック42で符号化されてデジタル通話信号となる。TDMA部3のTDMAエンコード部32では、適応差分PCMコーデック41から出力されたデジタル通話信号が制御部5から指示されたタイムスロットに挿入されて、モデム部2の変調部22に入力される。変調部22では、上記デジタル通話信号により搬送波信号がデジタル変調され、この変調された搬送波信号は無線部1の送信部15に入力される。送信部15では、上記変調された搬送波信号が周波数シンセサイザ14から発生された送信局発振信号とミキシングされることにより、制御部5より指示された無線チャネル周波数に周波数変換され、更に所定の送信電力レベルに増幅される。そして、この送信部15から出力された無線周波信号は高周波スイッチ12を介してアンテナ11から家庭用基地局BSHまたは公衆用基地局BSPに向け送信される。

【0017】電源部6は、二次電池から成るバッテリー61と、このバッテリー61の出力電圧を基に所定の動作電圧Vccを生成する電源回路62と、バッテリーセービング回路63とから構成される。バッテリーセービング回路63は、例えばスイッチ回路から成り、制御部5から指定された間欠受信周期に従って、無線部1及び計時回路53に対する動作電圧Vccの供給を間欠的にオンオフする。なお、バッテリーセービング回路63によるバッテリーセービング方式には、動作電圧Vccを印加したまま動作クロックを間欠的にオンオフするものもある。

【0018】計時回路53は、上記バッテリーセービング回路63から供給される動作電圧Vccにより動作し、例えばプリセット端子付きのカウンタから成る。そして、このカウンタで基準クロックをカウントすることにより、現在時刻や通話時間等を表す計時データを出力する。

【0019】制御部5に付属して設けられるもののうち、キー入力部51は、複数のキーを有し動作制御等に必要な各種情報を入力するものである。表示部52は液晶表示器(LCD)から成り、上記キー入力部51からの入力情報や上記動作制御等に係わる各種情報を表示するものである。サウダ54は着信音を報知するものであり、パイプレータユニット55は着信等を振動で報知するものである。メモリ部56は、動作プログラムや電話番号あるいは後述するスケジュールデータ等の各種情報を記憶するものである。

【0020】制御部5は例えばマイクロコンピュータを主制御部として備えたもので、無線チャンネルアクセス制御手段や発着信制御手段、通話制御手段、バッテリーセービング制御手段等の通常の制御機能を少なくとも有している。この他、制御部5には、当該端末100のユーザに関する各種スケジュールデータを例えばメモリ部56の所定エリアに登録しておき、必要に応じて該スケジュールデータを読み出して表示部52に表示させるスケジュールを制御するための機能が備わる。

【0021】更に、本実施の形態において、制御部5には、自己のスケジュールに登録されているスケジュールデータまたはユーザにより新規に作成されたスケジュールデータを、相手端末においてスケジュールデータとして認識できるフォーマットであるメールデータに変換して任意の相手端末に送信するとともに、相手端末から受信されたメールデータをスケジュールデータに変換して自己のスケジュールに登録するための制御機能が備わる。

【0022】このスケジュールデータ送受信制御機能は、同図における制御部5内に示す、メール送受信手段501、スケジュールデータ変換手段502、スケジュール登録手段503により実現される。すなわち、メール送受信手段501は、スケジュールデータをメールデータとして送信または受信するための制御を行う。なお、このメールデータの送受信においては、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を送受する通信手順が用いられる。

【0023】スケジュールデータ変換手段502は、メールデータ送信時には、自己のスケジュールに既に登録されているスケジュールデータまたはユーザにより新規作成されたスケジュールデータをメールデータに変換してメール送受信手段501に渡し、メールデータ受信時には、メール送受信手段501により受信されたメールデータをスケジュールデータに変換し、スケジュール登録手段503に渡す等の処理を行う。スケジュール登録手段503は、キー入力部51により入力されるスケジュールデータを自己のスケジュールにそのまま登録する他、相手先から送られてきたスケジュールデータ（メールデータ受信時にスケジュールデータ変換手段502から渡されるスケジュールデータ）を自己のスケジュールに登録する処理を行う。

【0024】以下、このPHS移動端末100におけるスケジュールデータ送受信動作について説明する。まず、このPHS移動端末100におけるスケジュールデータ送信動作は図2に示すフローチャートに従って実施される。

【0025】このPHS移動端末100において、制御部5は、ユーザの所定の設定操作に基づきスケジュールデータ転送発呼モードを設定した後（ステップ201）、ユーザに対し、既に登録済みのスケジュールデー

タを送るものか新規に作成したスケジュールデータを送るものかを指示することを促す。

【0026】これによりユーザから所定の指示がある、と、制御部5は、その指示内容を基に、登録済みスケジュールデータを送るものか新規作成スケジュールデータを送るものかを判断する（ステップ202）。

【0027】そして、登録済みスケジュールデータを送るものであれば（ステップ202NO）、上記指示に付随して指定される登録済みスケジュールデータをメモリ部56から読み出す（ステップ203）。また、新規作成スケジュールデータを送るものであれば（ステップ202YES）、上記指示に続きユーザにより入力されるデータを基に相手端末に送ろうとするスケジュールデータを作成する（ステップ204）。

【0028】その後、制御部5は、ユーザによる転送開始操作を待ち、この間に、スケジュールデータを送ろうとする相手先電話番号の入力、転送開始ボタン押下等の転送開始操作がなされた場合（ステップ205YES）、メール送受信手段501を起動し、ステップ205で入力された相手先電話番号に基づき相手先端末へ発信する（ステップ206）。

【0029】上記発信後、メール送受信手段501は、所定の通信手順により、上記ステップ203またはステップ204にて用意されたスケジュールデータを相手先端末に送信する制御を行う。具体的に、メール送受信手段501は、上記通信手順開始後、スケジュールデータ変換手段502を起動する。これにより、スケジュールデータ変換手段502は、上記ステップ203またはステップ204にて用意されたスケジュールデータをメールデータに変換し（ステップ207）、メール送受信手段501に渡す。更に、メール送受信手段501は、スケジュールデータ変換手段502から渡されたメールデータを、上記通信手順信号の1つである例えば呼設定信号中の発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報内に組み込み（ステップ208）、相手先端末へと送出する（ステップ209）。

【0030】図3は、ステップ208でのメールデータ送信に用いられる呼設定信号のフォーマットを示す図である。同図に示す如く、この呼設定信号は、各々23オクテット（Oct）ずつの発サブアドレス情報と着サブアドレス情報によって構成される。このうち、発サブアドレス情報は、発サブアドレス情報要素識別子、内容長、サブ種別、識別コード、メールデータA等によって成る。識別コードには、当該呼設定信号にて送ろうとするメールデータがスケジュールデータであるか否かを識別する情報が書き込まれる。また、メールデータAとして、この例では、相手先端末に送ろうとするスケジュールデータに関する日付／時刻情報、イラストパターン、メロディパターン等が書き込まれる。日付／時刻情報には、毎情報「（指定年月日時分）、（毎年、指定月日時

10

20

30

40

50

分)、(毎月、指定日時分)、(毎日、指定時分)」、年情報(千位、百位、十位、一位)、月情報(上位、下位)、日情報(上位、下位)、時情報(上位、下位)、分情報(上位、下位)がある。イラストパターンには、スケジュール内容(文字)と一緒に表示するイラストのパターンを指定するコード情報が書き込まれる。同じく、メロディパターンには、スケジュール確認等に際して文字を表示する際に鳴らすメロディのパターンを指定するコード情報が書き込まれる。

【0031】また、着サブアドレス情報は、着サブアドレス情報要素識別子、内容長、サブ種別、メールデータB等によって成る。メールデータBとして、この例では、相手先端末に送ろうとするスケジュールデータのうちの内容部分(文字メッセージ)が書き込まれる。

【0032】このように、本発明では、図3に示す呼設定信号中の発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いることによって、自己の端末に登録されているスケジュールデータあるいは新規に作成されたスケジュールデータをメールデータとして相手先端末に送信でき、その際に、ユーザは、従来のように、スケジュールデータをメールデータとして入力する必要がなくなる。

【0033】次に、このPHS移動端末100におけるスケジュールデータ受信動作について図4に示すフローチャートを参照して説明する。このPHS移動端末100において、待ち受け中、着信があると(ステップ401YES)、制御部5は所定の通信手順により着信応答処理を行う。この着信応答処理において、制御部5は、受信された呼設定データ中にサブアドレスがあるか否かを判断する(ステップ402)。ここで、サブアドレスがなければ(ステップ402NO)、通常着信として処理する(ステップ406)。

【0034】また、サブアドレス(発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報)が存在すれば(ステップ402YES)、メール送受信手段501を起動し、メール受信処理を開始する。初めに、メール送受信手段501は、発サブアドレス情報内の識別コード(図3参照)を基に、スケジュールデータか否かを判断する(ステップ403)。ここで、スケジュールデータでない場合(ステップ403NO)、メッセージデータ(通常のメールデータ等)受信であると判断し、当該メッセージデータ受信処理を行う(ステップ405)。

【0035】これに対し、スケジュールデータである場合(ステップ403YES)、制御部5は、表示部52に対し、スケジュールデータが受信されたことを報知するための「スケジュールデータ受信表示」を行う(ステップ404)。

【0036】続いて、受信データを表示するかキャンセルするかに関するユーザ操作待ちの状態に移行し(ステップ407)、ここでキャンセル操作がなされた場合(ステップ407でキャンセル操作)、この受信データ

を破棄し、処理を終了する。

【0037】一方、表示操作がなされた場合(ステップ407で表示操作)、受信データを表示部52に表示する(ステップ408)。続いて、受信データを登録するかキャンセルするかに関するユーザ操作待ちの状態に移行し(ステップ409)、ここでキャンセル操作がなされた場合(ステップ409でキャンセル操作)、この受信データを破棄し、処理を終了する。

【0038】また、登録操作がなされた場合(ステップ409で登録操作)、自スケジュールの登録データ(メモリ部56に登録されているスケジュールデータ)を検索し、受信データで指定される時刻別のスケジュールが登録されているか否かを判断する(ステップ410)。ここで、受信データで指定される時刻にスケジュールデータが登録済みであれば(ステップ410YES)、

「既にスケジュールが登録済みです」等の登録済み表示を表示部52に対して行い(ステップ411)、該受信データを破棄した後、処理を終了する。

【0039】尚、ステップ410で指定時刻にスケジュールデータ登録済みと判定された場合、受信データを破棄せず、ユーザが重複してスケジュールデータの登録を希望する場合は、重複してスケジュールを登録する処理を付加しても良い。

【0040】これに対して、受信データに一致するスケジュールデータが登録されていない場合(ステップ410NO)、該受信データをスケジュールデータ変換手段502によりスケジュールデータに変換し、スケジュール登録手段503により自スケジュールに登録した後(ステップ412)、処理を終了する。

【0041】このように、本発明では、相手側端末から発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報(図3参照)を用いて送られてくるメールデータの識別コードを基にスケジュールデータであるか否かを判断し、スケジュールデータである場合には、当該受信メールデータをスケジュールデータに変換して自端末のスケジュールに登録でき、これによって、従来のように、受信したメールデータを改めてスケジュールデータとして自端末のスケジュールに入力する必要がなくなる。

【0042】次に、本発明に係わるPHS移動端末100を含むシステム全体としてのスケジュール送受信動作について図5を参照して説明する。図5は、ある端末(転送元PS)から対向する基地局CSを介して任意の相手先端末(転送先PS)にスケジュールデータを送信する時の接続シーケンスの一例を示す図である。

【0043】この場合、転送元PSでは、スケジュールデータ転送発呼準備段階(図2におけるステップ204に相当)で、転送先PSに送ろうとするスケジュールデータを新規に作成し(同、ステップ204に相当)、スケジュールデータ転送発信操作(同、ステップ205に相当)が行われるのを待って、メール送信手順を開始

する。初めに、転送元 P S は、基地局 C S に対して「リンクチャネル確立要求信号」を送出し、基地局 C S から「リンクチャネル割当信号」を受信することにより、「呼設定信号」を送出する。この時、図 3 に示したフォーマットに従い、その発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報内にスケジュールデータ A, B を書き込んだ「呼設定信号」を生成し、これを基地局 C S に送出する。この「呼設定信号」に対して基地局 C S から「呼設定受付信号」を受信した後、基地局 C S からの「応答信号」の受信待ちとなる。

【0044】これに対し、基地局 C S は、転送元 P S から上記「呼設定信号」を受信した後、転送先 P S に対して「着呼報知信号」を送出する。転送先 P S ではこの「着呼報知信号」により着信検出を行い（図 4 におけるステップ 401 に相当）、着信有りと認識することにより、基地局 C S に対して「リンクチャネル確立要求信号」を送出する。更に、転送先 P S は、上記「リンクチャネル確立要求信号」に対して、基地局 C S から「リンクチャネル割当要求信号」を受けた後、「着呼応答信号」を返送する。

【0045】これに対し、基地局 C S は、転送先 P S から上記「着呼応答信号」を受信することにより、転送元 P S より受信した「呼設定信号」を該転送先 P S に送出する。この「呼設定信号」を正常受信することにより、転送先 P S は、「呼設定受付信号」を送り返し、その後、基地局 C S から「呼出信号」を受信することにより、「応答信号」を返送し、更に、基地局 C S から「応答確認情報」の受信を待つ。

【0046】この間、転送先 P S は、受信した「呼設定信号」を基に、サブアドレスがあるかどうか、あるいはサブアドレスにスケジュールデータであることを示す識別コードが含まれるかどうかを監視し（同、ステップ 402、403 に相当）、サブアドレスがなければ、基地局 C S から「呼出信号」が受信されるのを待って、表示部 52 に対して着信表示を行う。この時、サウンド 54 を通じて着信音も報知する。

【0047】これに対して、サブアドレスがあり、この中に上記識別コードが含まれている場合には、上記「呼出信号」に対して上記着信報知（着信表示及び着信音報知）は行わずに「応答信号」を返送し、この「応答信号」に対して基地局 C S から「応答確認信号」が受信されるのを待って、スケジュール受信があることを示すスケジュール受信表示（同、ステップ 404 に相当）を表示部 52 に対して行う。また、サブアドレスがあっても、その中に上記識別コードが含まれていない場合には、通常のメッセージ（メールアドレス等）着信であることを示すメッセージ着信表示（スケジュール受信表示とは明確に区別し得る態様）を行う。なお、このスケジュール受信表示及びメッセージ着信表示に関しては、必ずしも着信音報知を行う必要がない。基地局 C S では、転

送先 P S から「応答信号」を受信することにより、転送元 P S に対して「応答信号」を送信し、以後、転送元 P S と転送先 P S とは通話可能となる。

【0048】なお、上記実施例では、P H S 移動端末等の無線通信端末を前提とした場合のスケジュールデータ送受信機能について説明してきたが、本発明は、発サブアドレス情報及び着サブアドレス情報を用いた通信手順を持つ通信端末全般に利用できるものであり、有線通信端末か無線通信端末かを問うものではない。

10 【0049】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、スケジュールデータをスケジューラに登録できるデータフォーマットに変換して相手先端末に送信する機能を具備したため、相手先端末にスケジュールデータを送信する場合、スケジュールデータが登録済みのものか新規に作成するものに拘わらず、該スケジュールデータをメールアドレスとして入力する操作が不要になる。

【0050】また、本発明では、受信メールアドレスをスケジュールデータに変換して登録する機能を具備したため、相手先端末からメールアドレスを受信した場合、該受信メールアドレスをスケジュールデータに変換して登録でき、受信メールアドレスをスケジュールデータとして入力し直す必要が無く、利便性に富む。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係わる P H S 移動端末の一実施の形態を示すブロック図。

【図 2】P H S 移動端末のスケジュールデータ送信動作を示すフローチャート。

【図 3】スケジュールデータ送信に用いる呼設定情報のフォーマットを示す図。

【図 4】P H S 移動端末のスケジュールデータ受信動作を示すフローチャート。

【図 5】P H S 移動端末間のスケジュールデータ送受信制御シーケンスを示す図。

【符号の説明】

100 P H S (Personal Handyphone System) 移動端末

1 無線部

11 アンテナ

40 12 高周波スイッチ (S W)

13 受信部

14 周波数シンセサイザ

15 送信部

16 受信電界強度検出部 (R S S I)

2 モデム部

21 復調部

22 変調部

3 T D M A (Time Division Multiple Access) 部

31 T D M A デコード部

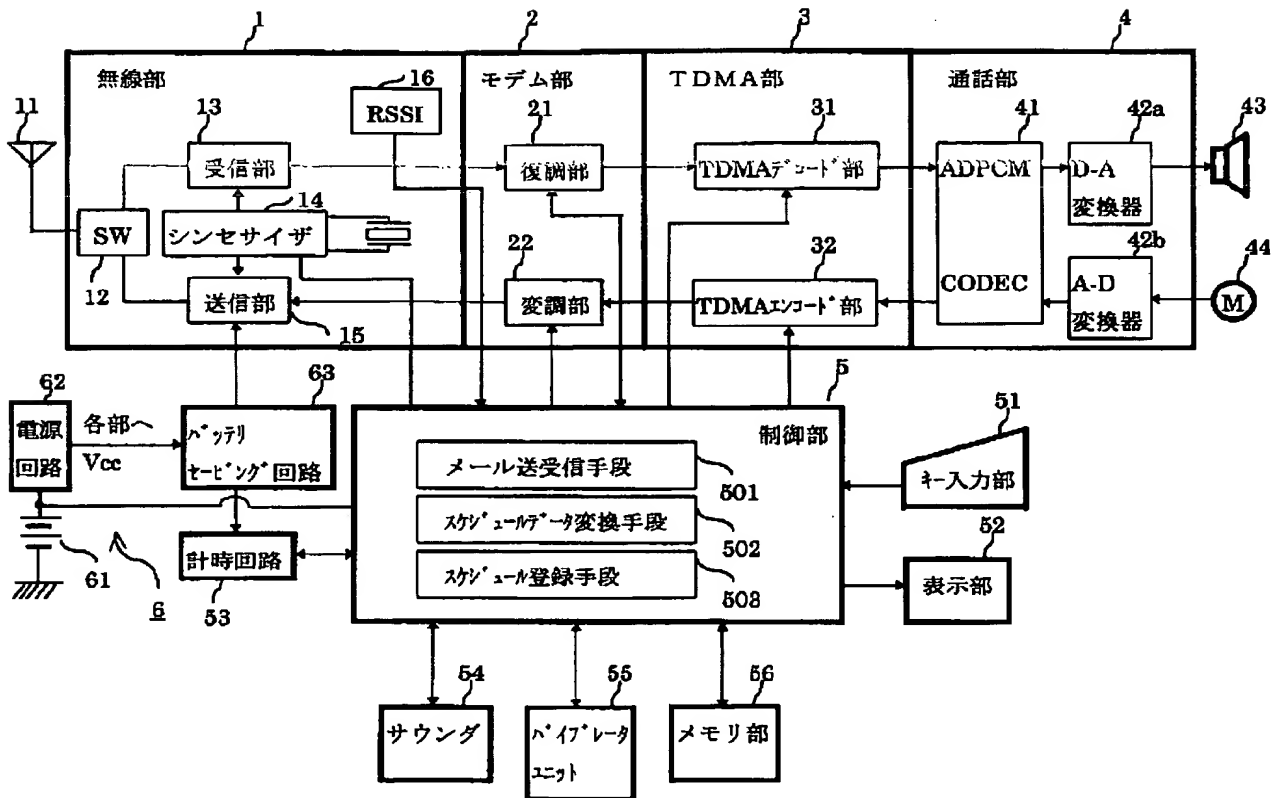
50 32 T D M A エンコード部

- 4 通話部  
 4 1 適応差分PCMコーデック (ADPCM-CODEC)  
 4 2 a D/A変換器  
 4 2 b A/D変換器  
 4 3 スピーカ  
 4 4 マイクロホン  
 5 制御部  
 5 0 1 メール送受信手段  
 5 0 2 スケジュールデータ変換手段  
 5 0 3 スケジュール登録手段

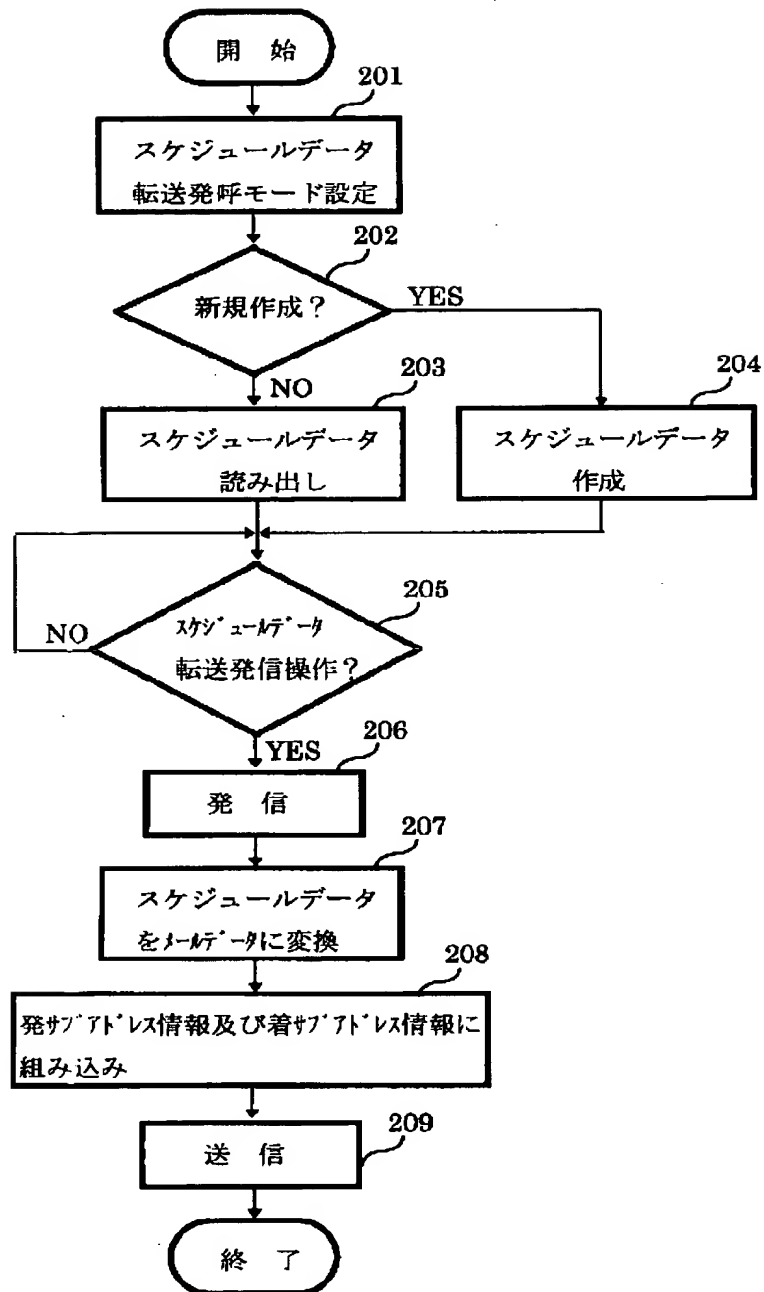
- 5 1 キー入力部  
 5 2 表示部  
 5 3 計時回路  
 5 4 サウナ  
 5 5 バイブレータユニット  
 5 6 メモリ部  
 6 電源部  
 6 1 バッテリ  
 6 2 電源回路  
 10 6 3 バッテリセービング回路

【図 1】

100 PHS 移動端末

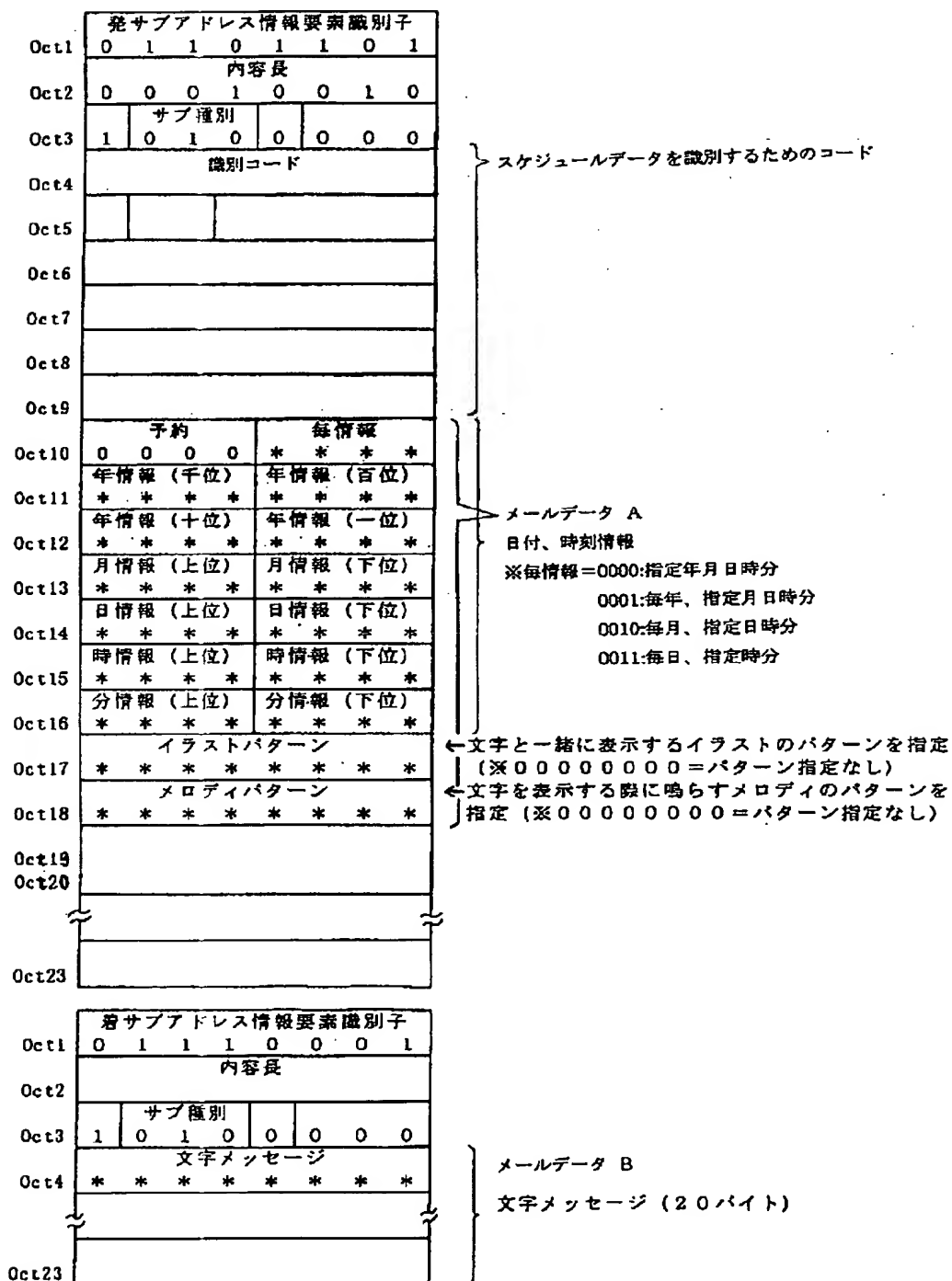


【図2】

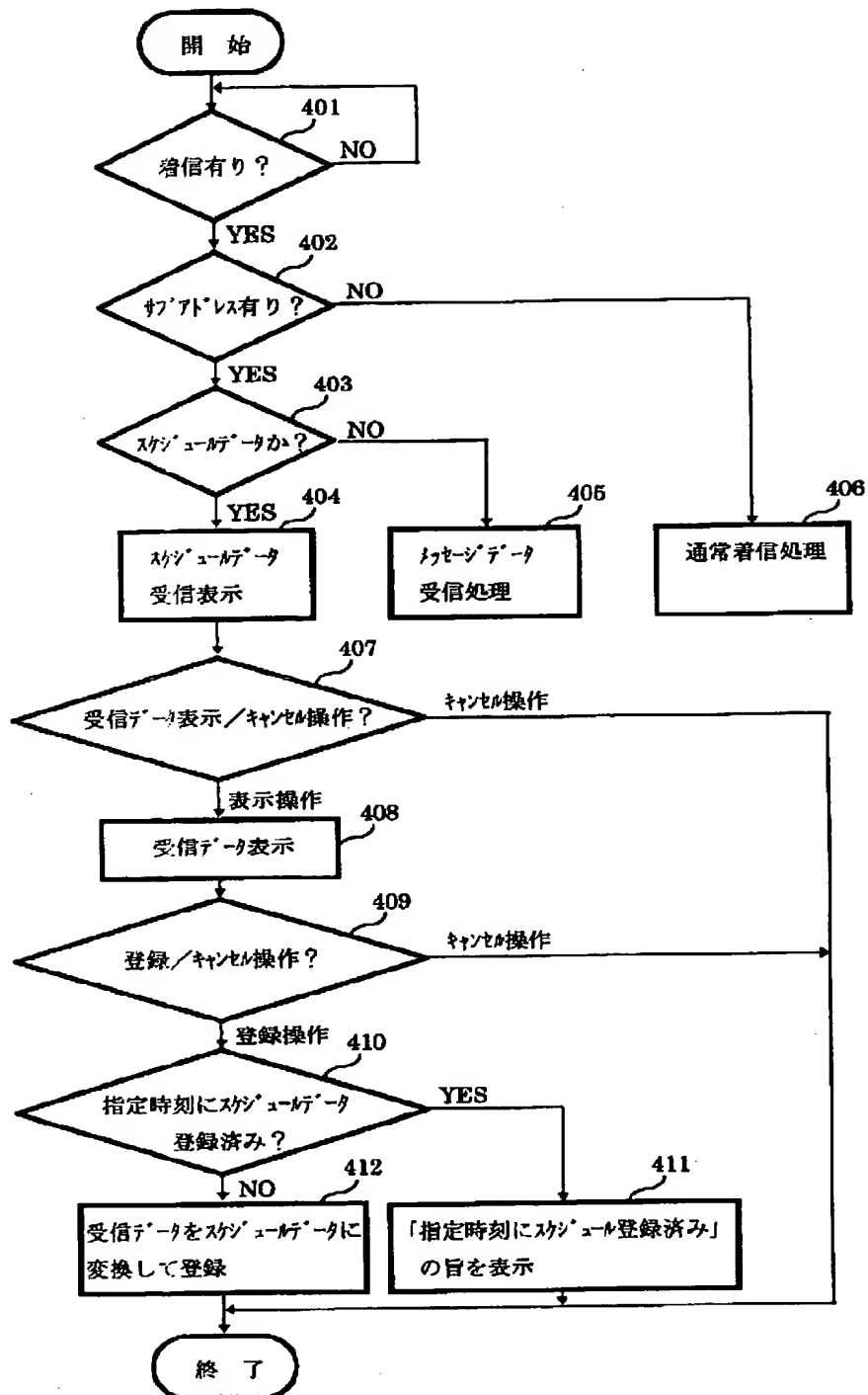




【図3】



【図 4】



【図 5】

